

保存年限	永・10・⑤・3・1 年	文書番号	8 - / - 0
☒ 開示 ☐ 一部開示 / ☐ 不開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)			
☐ 時限不開示 (開示: 年 月 日)			
議長	副議長	局長	次長
係長	係		

様式第3号 (第1項関係)
経理基準

行政視察報告書

令和6年10月9日

会派名 みらい創造クラブ
代表者氏名 利根川 正
又は議員指名

1 視察議員名

利根川 正 横山人美 阿部裕和 東野恭行 加藤康太郎

2 視察期間

令和6年 7月16日 (火) から
令和6年 7月18日 (木) までの 3日間

3 視察先

- ・豊後高田市役所・昭和の町 (豊後高田市観光まちづくり株式会社)
- ・北九州市役所・勝山公園 (Park-PFI)

4 視察目的

移住・定住促進、昭和の街づくりについて
「Z世代課」新設の目的と経緯
Park-PFI 事業の事例 (整備と運用) の視察

5 視察の概要

別紙のとおり



～みらい創造クラブ 令和 6 年度/行政視察報告書～

出席議員

利根川 正 横山 人美 東野 恭行 加藤 康太郎 阿部 裕和 (みらい創造クラブ)

< 視察先/日程、及び、調査項目 >

① 大分県豊後高田市/令和 6 年 7 月 17 日(水)

<1> 『移住・定住促進について』

- ・「住みたい田舎」ベストランキング 4 年連続全部門1位、
10 年連続『人口の社会増』の実績をあげた移住・定住の施策、
支援策の特徴、効果、財源等

<2> 『昭和の町づくりについて』

- ・人口は減っても元気なまちづくりによる、中心市街地・商店街活性化等

② 福岡県北九州市/令和 6 年 7 月 18 日(木)

<1> 『Z 世代課について』

- ・「Z世代課」新設の目的と経緯、今後の展望、及び、若者支援施策、予算措置等

<2> 『Parak-PFI について』

- ・Park-PFI事業(勝山公園等)の事例と担い手づくり(活動促進・普及促進)、
財政支援制度等

① 大分県豊後高田市 【市の概要】

豊後高田市は、大分県の北東部、国東半島の西側に位置する市です。
面積は、約 206 平方キロメートルで、
平成 17 年 3 月 31 日に、豊後高田市、真玉町、香々地町の
1市2町が合併し、人口 26,101 人(男性:12,207 人、女性:13,894 人)、
新生「豊後高田市」が発足しました。

人口は、令和 6 年 6 月 30 日現在、21,773 人(高齢化率 38.3%)です。
歴史的には、奈良時代末から宇佐神宮の影響を受け、平安時代には「六郷満山文化」が栄えました。
観光地としては、「昭和の町」や真玉海岸が有名で、特に真玉海岸は夕陽の名所として知られています。
また、農業も盛んで、特産品として、白ネギや柿、コスモスが有名です。



<1> 『移住・定住促進について』

ワンランク上のスローLife『住みたい田舎』12 年連続ベスト3！

佐々木敏夫市長は、

「何もしなければ、市が消滅すると思い、危機感とスピード感を持ってやってきた」

平成 29 年の就任以来、「地域の活力は人である」という信念のもと、人口減少対策が最重点
課題と位置付け、下記の「子育て支援」や「移住・定住対策」などに力を注いできました。

これらの取り組みは、将来を担う子どもたちのための「未来への投資」であり、
市外から移住者を呼び込む施策として位置付けたものです。

トップクラスの支援！！ 全て、完全無料！

更に、『子育て応援誕生祝い金』、最大200万円支給！（令和4年～）

第1,2子には10万円、第3子には50万円、第4子には100万円、第5子には200万円の支給。

一括支給ではなく、生後4カ月から、6歳までの誕生日の節目に支給する工夫がある。

高校生までの医療費（平成30年～）

0歳～中学生までの給食費（平成30年～）

市内保育園の保育料＆市内公立幼稚園の授業料（平成31年～）

妊産婦の医療費（令和2年～）

高校生授業料の910万円の世帯収入制限をはずし、完全無償化（令和5年～）

子育て応援入学祝い金＜小・中・高校入学ごとに、5万円＞（令和6年～）

高校生までの入院時の食事代、無償化（令和6年7月～）

高田高校生に対する昼食の希望者への無料提供（準備中）

とどまることなく、市長も参加する地域活力創造課担当の「移住者懇話会」で移住者の声に耳を傾け、アイデアのヒントを紡ぎ出し、庁内ぐるみで即応して、更なる拡充策を図っている！

『教育支援』も充実！しており、無料の市営塾『学びの21世紀塾』の取組によって。

大分県内、17年連続「トップクラス」の学力！＜OBの先生、市職員の協力＞

☆重点（子育て支援）施策への財源は、「ふるさと納税」による寄付金、約2億3千万円を全額充当！
さらなる財政改革も断行し、18億円の一般財源の無駄を省き、重点施策への予算を確保。

「空き家バンク」事業にも、平成18年から取り組んでおり、「空き家リフォーム事業」、
「空き家マッチング奨励事業」で年間30～40件の成約があり、登録物件が不足している状態。

『住宅施策』も充実！

- ① 豊後高田市定住促進団地
- ② ぶんごたかだ新婚さん応援住宅「ハピネス・ステージ」
- ③ 豊後高田市定住促進子育て応援住宅「住まいるハウス」
- ④ ぶんごたかだ夢まち城台子育て支援住宅「エミール城台」
- ⑤ 北田分譲団地（坪単価/15,000円！）
- ⑥ 豊後高田市定住促進無償宅地（土地代無料！先着順42区画）



昭和35年～平成22年までは、19,475人（年平均390人減少）しているが
平成12年から平成22年は、2,300人（年平均230人）の減少となっており、
歯止めがかかっています。また、「昭和の町」としての観光戦略（認知）と、重点施策等の効果に
よって、平成27年・令和3年の国勢調査では、大分県内の全部過疎の自治体では、人口減少率が1番、低い結果となっています。

平成27年の国勢調査に基づく推計も、12,845人と、平成22年より、1,678人、改善されており
転入者数と転出者数の10年間（平成26年から令和5年）の推移も、747人の社会増となっ
ています。大分県内の市町村において、直近5年の人口移動で、転入超過になっているのは、
大分市、豊後高田市、中津市、日出町のみ。なお、24歳までの女性の転入超過が多いのは、
技能実習生（外国人女性）が含まれている。

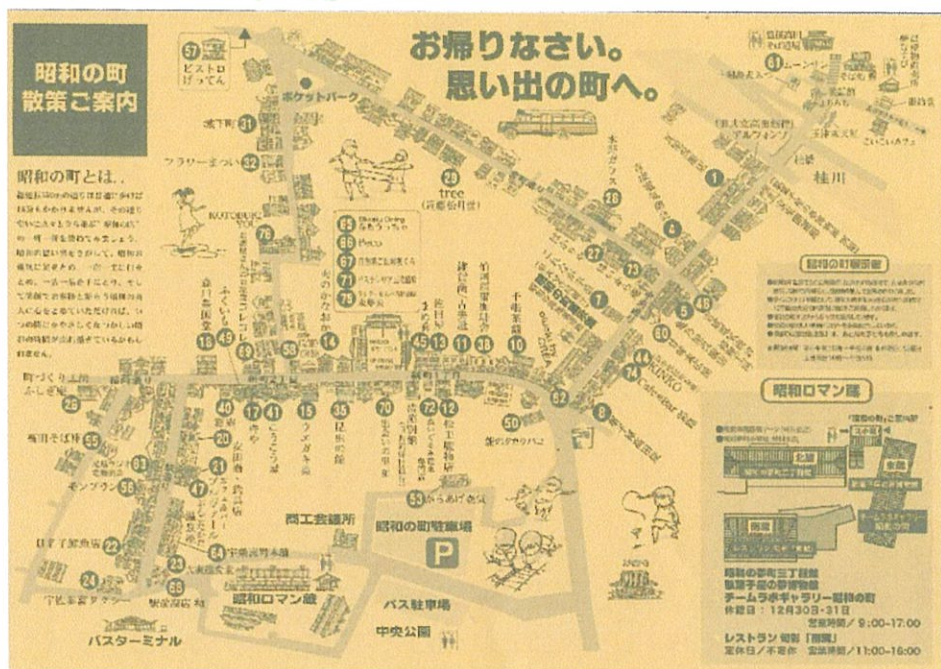
令和5年度は、121世帯、247人の方が、支援策を活用し、移住されました。

過去、10年間においては、1,339世帯2,903人（現人口の約13.3%）が移住されています。

産業振興にも力を入れており、『中核北部工業団地』を30年前より整備し、全世界へ
向けて、自動車部品を供給しており、工業団地全体で、17社、約1400人の雇用を生ん
でおり、毎月、多くの求人があるおかげで、移住者（59%）の就職・雇用の受入先になっている。

市外から移住者を呼び込む施策については、各市町村それぞれに進化しており、豊後高田市の事例も参考にしたいと考えるが、当市の「移住定住策」が直接的に人口減対策に寄与しているとは考えにくく、周辺地域の産業振興（働く場所）が人口増加に大きな影響を及ぼしている事実がありました。働く場所が近隣に確保されていることで、はじめて移住定住施策の制度が活かされていると感じた視察内容でした。糸魚川市においては、引き続き、移住定住策とUターン施策の差別化を図りつつ、同様に産業振興において、「日本一の心地よさ」を目指し、地域企業と連携し魅力化を図っていただきたいと考えます。また、子育て支援策については、豊後高田市に習い、「ふるさと納税」による寄付（目的活用）や財政改革を検討、断行し、市内外に広く「子育て支援の為に財源確保」について、認知してもらえる事によって、『子育てするなら糸魚川』として浸透してゆくと考えます。「危機感」と「スピード感」を持った首長による「決断」と現場の声（ヒント）を聴き逃さないことが肝要となります。

<2>『昭和の町づくりについて』



江戸時代から昭和 30 年代にかけて、国東半島で一番栄えた町・豊後高田市。しかし、時代の波に取り残され、徐々に寂れていきました。そんなとき、町の人々が**逆転の発想**で考えたのが、今までは、テレビや映画の中でしか見ることができなくなった、昭和 30 年代の懐かしい商店街の町並み（調査の結果、商店街の約 300 軒の店舗うちの 6～7 割は、昭和 30 年代以前に建設されていたことがわかり、高度経済成長期の波に乗れずに取り残されたことが逆に功を奏し、入口のアルミ戸を木造サッシに変え、化粧された看板を取り除くなど、多少の改装をするだけで、**多額の費用をかけなくても、昭和 30 年代当時の姿を蘇らせることができる**と判明）を再現する取組でした。

平成 13 年 9 月に、**商店、商工会議所、行政が一体となって、まず、7 軒の店を改修して取り組み**を始めることによって、この年には、2 万 5712 人の観光客が訪れました。その後、参加する店舗を増やしながら、平成 14 年 10 月には、日本一の駄菓子屋おもちゃコレクターのコレクションが展示される「駄菓子屋の夢博物館」などが入った「昭和ロマン蔵」をオープン。この年の観光入込客数は、約 8 万人に跳ね上がり、メディアにも取り上げられることによって、「昭和の町」は、全国に知られることになりました。

翌年の平成 15 年には、20 万人を突破し、平成 16 年には、約 25 万人、平成 17 年には、約 26 万人と、順調に観光入込客数を伸ばしてきました。人通りも少なかった総延長 550m ほどの商店街には、観光客が年々、増えて、ピーク時には、**年間40万人！が訪れる町へと生まれ変わりました！**



各店舗では、「一店一宝」として、代々伝わる昭和の歴史を物語る昭和のお宝の展示や、「一店一品」としてそのお店の自慢の昭和の商品の販売が行われ、観光客や地元の買い物客で賑わっていました。

また、昭和 32 年式のボンネットバスによる昭和の町商店街や桂川沿いに行く 15 分程度のミニ周遊は、大変な人気となっているそうです。週末を中心に運行しており、ガイドさんの楽しい案内も話題となり、当時を懐かしむ高齢者世代だけでなく、意外にも、5 割を超える若者世代の多くのリピーターが、あまり、お金をかけずに楽しめることもあり、家族連れで、2 度、3 度と訪れているそうです。



懐かしさと温かさが交差する昭和の商人のいる場所として、ホスピタリティー溢れる豊後高田市の認知と移住・定住へのイメージアップにつながっており、商店街にも出店・起業する移住者もあり、商店街の活性化にもつながっています。

しかし、予想以上の観光客が押し寄せるようになり、通常の業務に加えて手弁当で行える範囲をはるかに超えてしまい、課題も出てきました。課題を克服して、「昭和の町」の観光を持続可能な事業へと発展させるべく、平成 17 年 11 月、市から 5000 万円、商工会議所から 500 万円、金融機関と一般株主から、それぞれ 2000 万円、計 9500 万円の資本金が集められて、「豊後高田市観光まちづくり株式会社」が設立されました。民間の経営手法の導入と施設の拡充などにより、「昭和の町」はさらに発展し、平成 19 年から現在に至るまで、観光入込客数は、毎年 30 万人を超える全国有数の観光地となる契機となりました。



「昭和の町」は、3つの総合戦略に関わる取り組みの1つであり、昭和の町に取り組んだ最大の理由は、経済効果だけではなく、真の目的は、「市民が“自分の住んでいる町”に誇りを持てるようになること」です。

豊後高田らしさを残しながら地域力を向上させ、市長のリーダーシップのもと、本当の目的に向かって、長期戦略的を持って『産業振興』『観光』『定住』の3つの施策を、行政のみならず、総合的に一体化、連携して注力「全力発展中！」していくことが着実な成果を生み続けていく秘訣だと学ばせて頂きました。

豊後高田市は、山・里・街・海・温泉の5つを市の魅力としており、糸魚川市の自然、風土と比べても、とても似ており、人口規模も 2 万人ほどであり、今後の商店街の活性化、賑わいの町作りの先駆けとして参考にし、観光協会、行政、商店街の皆さんで連携し進めていくモデル(先進事例)になりうると考えます。

あわせて、景観づくりや、様々な手法について、参考にすべきですが、糸魚川市が、豊後高田市の手法をそのまま真似をしても、観光客数の増加には繋がらず、『市民が自分の住んでいる街に誇りを持てるようになる事』から取り組みを進める必要性も感じました。

強いリーダーシップを元に、市役所だけでなく、市民、企業、団体との対話があり、地域らしさと一体感を持った地道な取り組み、有るものを活かしていく試行錯誤が結果的に功を奏すと考えます。



福岡県北九州市 【市の概要】

北九州市は、福岡県北部に位置する政令指定都市で、1963年(昭和38年)2月10日に、門司市、小倉市、若松市、八幡市、戸畑市の五市が合併し、九州初の政令指定都市として誕生しました。九州地方第2位の都市であり、

人口:909,579人、面積:492.5k㎡(R6.4.1)を擁します。

また、1974年に、小倉区が小倉北区と小倉南区に、

八幡区が八幡東区と八幡西区を区分し、現在は7つの行政区で構成されています。

市内には、工業地帯としての歴史を持つ八幡製鉄所があり、現在も製造業が盛んです。

また、「環境未来都市」として、環境保護や持続可能な都市づくりに力を入れています。

観光地としては、小倉城や門司港レトロ地区が有名で、多くの観光客が訪れます。

交通の要所としても重要で、新幹線や空港、港湾が整備されており、国内外とのアクセスが良好で、さらに、文化やスポーツの振興にも力を入れており、様々なイベントや施設が充実しています。



<1> 『Z世代課について』

武内市長(令和5年2月20日就任)のリーダーシップのもと、令和6年4月に、全国初！となる新設された「Z世代課」は、『主体性をもって活躍できる次世代の育成』と

若い世代のニーズ・価値観を学び、時代の変化にスピーディーに対応することで持続可能な北九州市となることを目的に、

20代から40代の職員16名(うち兼務12名/平均年齢28.3歳)で

構成されており、最年少の女性課長である柏木佳奈子さん(40歳)がリーダーを務め、若者の意見や価値観(マーケティング)を市政に反映させる取り組みを進めています。

若者の自由な発想や提案を引き出し、それらを実現させるための教育や伴走支援等を行うなど、地域一帯で『日本一若者を応援するまち・北九州市』の実現を目指し、若者のチャレンジを応援する『シン・ジダイ創造事業』は、Z世代の特徴である「承認欲求の強さ」や「自分らしさを重視」する傾向を踏まえ、事業計画があり、やりたいことが明確な若者(市内外15~29歳)には、



①機運醸成・イメージ発信する『Z世代アイデアコンテスト』

何かやりたいが、どう動けばいいかわからない若者(市内在住・在勤・通学15~29歳)へは、

②次世代を育成する『次世代創造プログラム』

各種役所が主導になり、若者が主体となり地域課題に取り組む

③若者の力を活かした『区役所創造プロジェクト』の3つの事業を展開し、

各事業の成果を検証・共有する『合同成果報告イベント』を実施する。

また、Z世代課の事業を成功させるためには、

＊承認欲求が強い(他人の評価が気になる)

＊多様性・自分らしさ重視

＊コスパ・タイパ現実主義

＊社会課題への関心が高い

＊挑戦したい・貢献したい

＊横並び意識が強い(目立ちたくない)

＊自身がない・納涼がない・一歩が踏み出せない

の特徴(柏木課長の主観を含む)を持つZ世代に向けて、

◆成功・失敗体験が不足(チャレンジへの苦手意識)

◆デジタルネイティブだからこそ、リアルな経験を

どう広めて、辞意際に参画、体験してもらえるのが課題であり、

主体性を持たせる取り組みや思いをただの要望にしないための工夫など、
まだまだ、「これからどうしていくのか」、試行錯誤(挑戦)されている様子も伺えた。
あわせて、推進していくうえで、庁内でも温度差があり、組織全体での認識の変革(職員の意識変容)
も同時に必要であり、しっかりと、こちらも取り組んでいくとの事でした。
本事業を機縁に共感し、もっと経験・特技を活かして北九州市を盛り上げたい！何か市の役に立ちたい！との声が市内外からも多くあり、市内外を問わず、熱意のある15～29歳に対して、登録(申請)を受付、委嘱(名刺発行)する『Z世代課パートナーズ制度』(市役所:審議会委員や政策提案、市内企業:採用活動への助言、新規プロジェクトへの協力等)も新たに設立した。

Z世代課は、「シン・ジダイ創造事業」の他にも、取組を通じて学んだ若い世代の価値観や行動傾向を各課と共有し、各課の施策がより効果的・効率的に実施されるよう他の課の事業について助言する(市政に反映させる)ための重要な役割を果たしており、若者の声を大切に、若い世代の価値観やニーズを受け入れ、そのアイデアを実現することで、着実に次世代へ受け継いでいける持続可能なまちに近づいていくと感じました。また、Z世代課の目的が、所属するZ世代職員の「達成したいこと(目的)」に合致するのにか心配な点もありますが、担当課の主体性を持った取り組みにより、若い世代のチャレンジ意識が醸成されるだけでも存在価値があると感じました。
事業予算として、5千万円を当初より計上しているとの事でしたが、市政を担う「責任世代育成の為に
勇気ある予算措置」であると感じました。糸魚川市にとっても、参考とすべき、持続可能なまちづくり
へ向けた重要な取り組みだと考えます。当市においても、若い世代の声や参画、成長が図れるよう
施策を展開して市政に活かしていく仕組み、体制を構築されるよう提言・要望していきます。

<2> 『Parak-PFIについて』

民間活力を導入するため、『公募設置管理制度』(park-PFI)を活用し事業展開している。
主に「勝山公園」を事例に、北九州市都市戦略局都市再生推進部緑政課より、お話を伺いました。

1 (1) 勝山公園の概要

公園種別:総合公園(市のシンボル公園)
面積:202,553㎡(計画決定:22.1ha)
開設:昭和32年4月1日
主な施設:小倉城、小倉城庭園、大芝生広場、遊具広場、中央図書館、文学館等



北九州市の都市公園は、1,719 公園:面積約 1193ha⇒13.0 ㎡/人【R5.4.1 現在】があり、
全国平均 10.7 ㎡/人、政令市平均 6.8 ㎡/人を大きく上回っている。

『北九州市 緑の基本計画』では、

「多様な主体が育む持続可能で、みどりがいきづくまちづくり」

- ① 自然との共生
- ② 魅力の向上とにぎわいの創出
- ③ 安全・安心の確保

を掲げ、公園管理・運営にあたっている。

「勝山公園」は、市のシンボル公園（総合公園）であり、面積 22.1ha あり、昭和 32 年 4 月 1 日に開設されました。敷地内には、北九州市役所、小倉城庭園、中央図書館などの多くの市民が集まる施設があります。

☆民間活力導入の経緯

＜平成 27 年度＞

- ① 事業参画の可能性にかかる事業者への事前ヒアリング
- ② 公園内主要箇所の通行量調査
- ③ 市民ニーズの把握（利用者アンケート調査）
- ④ 「紫川のオープンカフェ/Canal Viola（カナルヴィオラ）」社会実験を行い、事業実施個所の選定を決定した。

1 勝山公園の事例

＜平成 28 年度＞

- ① マーケットサウンディングの実施
を行い、公募要件の絞り込みをしました。

＜平成 29 年度＞

- ① 公募の手続きの実施、事業者の決定、工事実施
- ◎公募対象公園施設（便益施設）
- ・公園利用者に、**飲食・物販サービスを提供する便益施設**
 - ・建築面積は約 200 m²、**平屋建てを原則**
 - ・最低 20 席の休憩スペースを確保
 - ・**周辺の景観に調和した建築物の整備**
 - ・「風営法」の適用を受ける施設は不可
 - ・公園利用者が誰でも利用できるトイレの整備
 - ・夜間照明などにより資格や暗がりのない安全な施設計画
 - ・「都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン」への適合
- ◎特定公園施設
- ・施設周辺の約 350 m²の区域に、園路、休憩施設、植栽等の公園施設の整備提案

☆【事業者の提案・施設概要】

- ◎選定事業者：有限会社 グリーンス
- ◎コンセプト：勝山公園の「くつろぐいちばんいいところ」
- ◎事業展開：カフェ（珈琲所コメダ珈琲店・フランチャイズ）
 - ・年中無休/営業時間 7:00～23:00（現在 7:00～22:00）
- ◎価額提案：使用料単価 月額 1,000 円/m²
 - ＊市の最低要件：月額 200 円/m²
 - ⇒ 200 m² × 1000 円/m²・月 × 12 か月 = 2,400 千円/年
 - ・特定公園施設整備に係る市に求める負担額 1300 万（84%）
 - 残りの約 16%を提案事業者が負担**

☆【事業実施の効果】

- ◎平成 30 年 7 月 18 日の店舗オープン以来～
延べ **59 万 5 千人！の来店**（令和 6 年 3 月末現在）
- ＊周辺イベントとの連携
 - ・小倉イルミネーション点灯式での花火
 - ・イルミネーションの実施
- ＊公園周辺が夜も明るくなったことで、夜の公園に「**安心感**」が醸成された。



珈琲所コメダ珈琲店

特定公園施設



周辺の景観に調和した建築物



植栽・誰もが利用できる休憩施設



小倉イルミネーション

小倉イルミネーション（隅外橋）



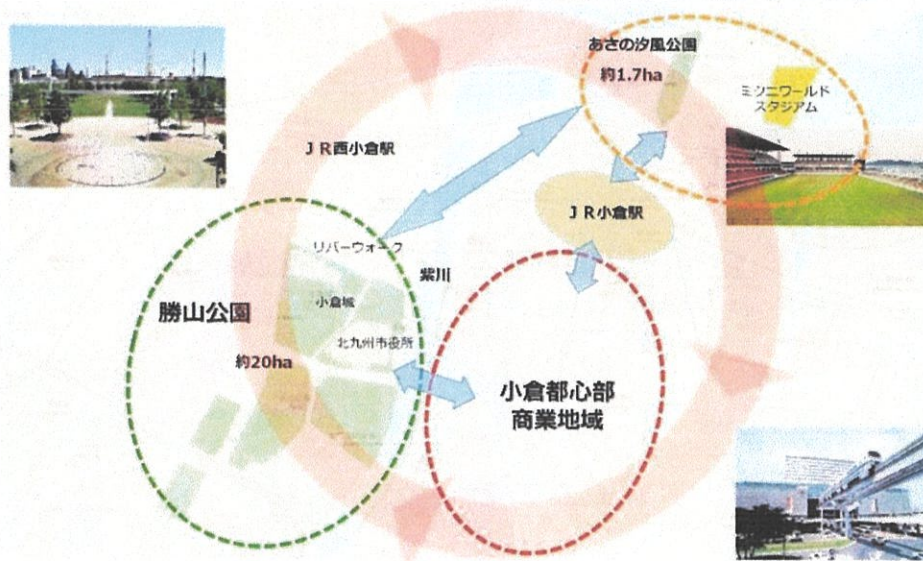
コメダ珈琲による
イルミネーション



◎民間活力の導入(年間使用料の 240 万円/年)により公園整備等に利活用されるだけでなく、「公園のにぎわいの創出」と「安心安全な空間を提供」する付加価値向上へとつながり、小倉駅を中心とする『都心集客(回遊)アクションプラン』にも大きく寄与している。

1 (2) 勝山公園への民間活力の導入の経緯

「都心集客アクションプラン」



糸魚川市においても、都市公園(美山公園等)での民間活力導入(公募設置管理制度/ParkPFI)の可能性があり、活用していくべきと考えます。

しかし、この制度の導入にあたっては、市民ニーズの把握や事業者への聞き取りも重要であり、従来の固定概念にとらわれることなく、使いやすく安心安全で居心地の良い、愛される公園にするためには？を地域住民をはじめ民間事業者とのオープンな『官民対話』を重ねて、実施個所の選定、公募要件の絞り込み、協議(議会との情報共有含めて)・修正等を進めていくことが重要となります。

また、北九州市では、令和3年度に「到津の森公園」への民間活力の導入も図っており、「勝山公園」の事例・検証を踏まえて、庁内職員のスキルアップと次なるステップへ活かしており、今後、あらゆる施策実施・事業展開において、必須要件となる「官民連携」を確実に進めている。

あわせて、持続可能な都市公園の運営管理について考慮するなら、受託事業の契約期間の採算性確保において折り合いが付くかどうかポイントであり、目的、公共性を損なう事なく、運営側(民間視点)の採算性シミュレーションと採算性をあげる提案を受け入れる柔軟な条件交渉も肝要であると感じました。あわせて、北九州市の「勝山公園」においては、糸魚川市と比べると周辺の公共施設や人口規模においても、大きく条件が違っているので、当市においては、Park PFI の募集要件(採算面も含めて)を相当、魅力あるものにしていかなければ、事業者(複数者)からの公募につながらないと感じました。